佐保会兵庫県支部だより

昭和53年11月15日発行　〒652－12 神戸市北区緑町5－3－21　佐保会兵庫県支部事務局 581－5727

佐保会の新事業への御後援を

佐保会が佐保女学院短期大学を経営していることは、皆様十分に御存知のことと存じます。何しろこの事業は十年以上も続いているものなのですから。しかし、福祉法人として佐保苑という軽費老人ホームを経営していることについては、まだまだ御理解が十分ではないのでは？と危惧いたしています。佐保会報にも一・二度掲載されましたし、それに関するパンフレットも送られてきました。けれどもこれはまだ発足してから日も浅く、半年程の新顔ですから。それに人間というものは、自分の身近で見たり聞いたりしていないものについてはとかく疎くなり勝ちなものです。「何をくどくどとわかりきったことを言い出したのだ」とお怒りにならないで下さい。実は次のことがお願いしたいのでして、ここまでが序の口であったわけです。

佐保苑は本部の方々、別しては長谷川理事長・宮崎副理事長が我が身を忘れての御奔走によって生れ出ました。国や県から補助をもらうこと、土地を撰ぶこと、現地住民の方々との接渉、建築のこと、種々雑多な、そして次から次へと起ってくる問題を一つずつ片づけ、乗り越えて、現在見るようなものにまで作りあげて下さいました。

さて次に来るのは維持運営ということです。

世の中には社会福祉を唱えながら、結構そこから利潤を産み出している人もいると聞いていますが、この佐保苑たるや、まさに福祉の精神そのものに徹して、入苑者は食費（それも本当の実費）を出すだけでそれ以外には一切の負担なしというやり方です。たて前と本音の別れるのもまた日本では常識なのですが、こちらはたて前も本音もなし、表から裏まで透明です。

そこで我々佐保会員が「微力であってもその維持運営に力を尽さねば」ということになるのです。維持運営は息の長い仕事です。「今一度に大金をお寄せ頂かなくても結構です（お寄せ下されば尚一層結構ですけれど…）何かの折に思い出されては、たとえ少額でもその時々に御助力頂けたらうれしいと本部では仰っしゃっていらっしゃいます。例えば、お慶びの時の内祝をなさる時とか、御不幸の時の香典返しをなさる時とかに、この頃はよく社会事業に寄付なさることがありますが「**その時には是非佐保苑へ**」ということなのです。

どうか皆様、佐保苑のことをよくよく頭の中にたたきこんで頂き、この有意義な佐保会の新しい事業が順調に発展して行きますように、御協力、御援助をなさって下さいませ。

佐保苑は奈良市二名町一四二番地の三

近鉄富雄駅から徒歩一五～二〇分

同駅から二名町までバス五分、

バス停から徒歩五分のところです。

居住棟

一人室（六帖、押入、トイレ、洗面所）四室

夫婦室（八帖、押入、トイレ、洗面所）二室

管理棟「食堂・浴室・娯楽室」

全館冷暖房の鉄筋コンクリート建

申込事務は佐保苑か奈良県老人福祉課・奈良県内各福祉事務所で取扱っています。

以上御参考までに記しておきます。

なおこの募金は兵庫県では現在百万円を超えています。個人の応募以外、グループで物品販売した利益も含まれているのです。皆様、いろいろと知恵をしぼって下さい。

（社会福祉法人佐保会　理事　八木静子）

調停二十年

横田　するゑ

家庭裁判所が二十四年に発足して以来既に二十年近く、その機構もその機能も一般に知られてきていることですから、この稿では私自身携わらせてもらった事件の二、三を記し、併せてそれらの事件から又その人々から教えられ感得したことの一部を述べて責任を果したいと存じます。

家事部には審判事件と調停事件とがあり、私共調停委員は主として調停事件に携わります。もっとも調停事件でも最後は裁判官の審判によって決定される事件もありますが。

調停に出される事件の中最も多いのは夫婦間の事件、ついで遺産分割事件でその他親の扶養、離婚後の子の監護養育等種々ありますが、今は初に挙げた二種類についての例を記しましょう。猶調停委員会は裁判官と普通二人の調停委員によって構成されます。

一、夫婦間の調停について

新民法の施行後両性の平等が宣言され、女性上位などと喧伝されていますが、実態は是に伴わず依然として男性の優位むしろ横暴さえ感じられることが多く、例えば(1)二十才から二十年夫とその多くの家族に奉仕して生き、その間座って食事をした記憶はなくいつも台所の片隅に立ってすませた妻、しかも夫に愛人ができたという理由で離婚を迫られ、初は拒否していた妻も十回に余る調停委員会の後、将来に全く希望の持てないのを思い遂に離婚に合意しましたが、その慰籍料として夫の提示した額が驚くべきことに三万円でした。二十年間の青春を、命を捧げた報酬が僅か三万円、かなりの資産収入のある男性の額でしたから、委員会も唖然とし又内心憤慨もしたのですが、調停では裁判官と雖も命令はされないので、いろいろ説得の末ようやく十万円まで漕ぎつけて決定してしまいました。数年前の事件ですから現在と貨幣価値は多少変っておりますが。

(2)男の子二人を私立大学に入れ、かなり富裕な中年の夫婦、夫は次々と愛人を持ち、その入籍を迫られると妻に離婚を要求し、やがて入籍がすむと又同じことをくり返す。しかもその希望を遂げる為には手段を選ばないという男性、

(3)妻以外の女性との間に生まれた子を妻に無断で嫡出として届け出て、偶然の機会に妻がその戸籍を見て、数人の全く知らぬ子が自分の実子として記載せられているのに驚き、「親子関係不存在」の申立をしてきた等男性の身勝手さを感じさせる例は挙げればきりがありません。その他暴力を振う夫、生活費を渡さぬ夫等々。勿論女性からの申立にも私共の年令の者には納得のゆかぬものもありますがその比率からいえば問題にならない位です。

二、遺産相続の調停について

親又は祖先の努力の結晶を労せずして相続するのですから多少なりとも感謝があって然るべきだと思うのは第三者の感であって、殆んどの当事者は感情的になり、物、金への欲望の上に対立感が加わり、その為に容易に解決に至らず五年、十年に亘って争う事件もあります。時には委員も相続権者も亡くなってしまい、委員は代り相続権はその配偶者や子孫に移って猶いつ果てるとも知れず続くのもあり、真に人間とは欲に衣類を着せたものという名言を想い出すこともあります。ある例の如きは調停中その雰囲気の唯ならぬのを感じ、「あくまで話し合いで解決しましょう。暴力などに及ばぬように」と一言洩らした所、後日「あの時は相手を殺す決意をしていた。」と述懐され遺産の上にたつ争いの深刻さに慄然としたことでしたが、又一方委員の言動が興奮状態にある人に微妙な影響を与えることをしみじみ感じ、如何に言葉を慎しむべきかを教えられもしたのでした。徒然草に「身死して財残ることは智者のせざる所なり」とありますが、時は流れ人は変っても不変の真理で、遺産が兄弟姉妹間の愛情を失わせ、むしろ憎悪に怨恨に走らせる。反対に遺産の全くない兄弟姉妹間の愛情の深さ、助けあう心の強さを度々見せられることがあると、金とは何だろう。生きてゆくに必要な程度を越えた金とは何だろうと今更の如く考えざるを得ません。私は遺産分割に人間の最醜悪な面を見せられ、あまりの烈しさに涙が溢れてそのまま家に帰り途中乗ったタクシーで不思議がられたこともありました。

然し調停委員をさせていただいたが故に人間否定の立場にのみは立ちたくない。残された命を人間を憎んでは終りたくない。男女の争いの中にも人間としていたわりを忘れぬ人達を見る喜び、離婚した親達の子供に寄せる断ち難い愛情を見る切なさ等に人間性の美しさを見出して、人を、人間を、信じて生きたいと念願しつつ調停を続けております。（昭2・文）

「新しい生活科学センター」

酒居　淑子

「量から質へ」「物から心へ」と価値観が転換する時代にあって、改めて生活の質が問われています。

この四月、神戸港に浮かぶ人工島ポートアイランドに、兵庫県立生活科学研究所がオープンしたのをご存知の方もいらっしゃるでしょう。三年後に開催される神戸ポートアイランド博覧会までには、新しい交通機関とともに住宅・病院・ホテルなどの諸施設が立ち並ぶ新しい海上都市が完成しますが、目下のところはこの研究所が広い砂漠にポツンと建っている状態…。私は現在ここに勤務しております。

今から十余年前、設立間もない兵庫県立神戸生活科学センターへ就職したいと県庁の門をくぐったのが現在の私のスタートでした。生活課に四年、三宮の神戸生活科学センターに七年、そして今度の研究所とセクションとしては三つめです。それぞれ機能は違いますが、〝生活の科学化〟行政にずっと携わってきたわけです。

この研究所は、複雑高度化する消費者問題解決のため、四十七、八年ごろから消費者団体からの強い要望のもとに構想が練られ、このたび十億円の工費をかけて完成したものです。延建築面積一八〇〇m²の二階建ての建物に、理化学実験室の他、家庭機器の騒音や音響機器の測定をする無響室、温度湿度を調節できる恒温恒湿室、調理器具や食品の食味テストをするテストキッチン、機器を燃やしたり爆発させたりもできる耐火耐爆実験室、温度湿度条件を一定に変化させられるモデル住宅、諸々の耐火消費財のテストをする多目的実験室などの、主として使う立場からの実用テストのためのへや、設備、試験機器が揃っています。そして県民が、これらの施設などを自由に利用できる「開かれた試験研究施設」というのが全国でも

初めての研究所の最大の特徴です。

このほか、テスター養成講座や情報管理も業務としていますので、講座に参加したり、テスト関係の情報を自由に閲覧できます。どうぞ皆様お気軽にご利用ください。

まだ一部工事中のところもありますが、九月三十日のオープンセレモニー以後、完全に機能することになっています。

＊　＊　＊

〝生活の科学化〟を仕事としている私。やはり足元から、自分の生活からこれを実践しなければと家庭でも頑張っています。

もちろん、仕事を持つ身では自分一人では無理なこともあります。たとえば家庭での外とつながる部分など、これは幸い、同じ敷地内に主人の両親と同居していますので手伝ってもらってはいますが…。生活は全く別です。専ら、手ぬきではなく、シンプルライフを心がけ、家事の合理化、科学化を図っています。そして私なりの豊かな生活を模索しているこのごろです。

（昭42・家）

西播だより

佐保会の皆様お元気でいらっしゃいますか。元兵庫支部長の八木静子様から、支部だより2号発行について、県の西の方の状況をと御依頼をうけましたので、このお便りを差上げます。

以前には、見満先生のお骨折で、姫路に集まったこともありましたのに、近年はそのような機会もありませんでしたので、御消息をおたずねします。（全員にこの葉書をお出しすることはできませんので、お親しい会員の方にもおたずねいただけると有難いと思います。）

身辺の御消息も勿論うかがいとうございますが、政治・教育・生活（老人・婦人・障害者）・環境など、奈良女高師、奈良女子大で植えつけられた心を基盤に、日常いろいろとお考えと存じますので、御関心のあるところをおうかがいしたいと思います。

私は、中学・高校の家庭科を、男子も同じことを、同じように学ぶことの必要性（家庭科の男女共修をすすめる）と、幼児教育の質をもっとよくすることを切実に思っておりますので、特にこのような事について、卒直な御意見をうかがいたいとのぞんでおります。

姫路短期大学　香川敦子（昭12・理）

右への返信のうち項目毎にまとめられるものだけを三つ収めさせて頂きました。

幼児教育を考える

松本　澄子

私は、この四月に退職いたしました。再就職後、十五年間、同じ幼稚園にのみ勤務しておりました関係もあって、四月五日の複雑な心境には、我ながら些か、戸惑いを感じました。でも今は九月秋の訪れと共に過去は一切忘れることにし、すごくさわやかな気分で日々を過しております。同好会の新しいお友達も、それぞれでき、私なりに忙しい楽しい毎日です。

今の私にとっての一大関心事は、何と申しましても、「充実した老後の生き方は？」でございます。健康で、豊かな、有意義な、そして、楽しい老後をと張り切っております。

又、十五年間幼児教育の現場にあって、最も痛感しつづけたことは、先ず良い教師を得ることが、幼児教育の質の向上に直結するということでした。もっともっと、幼稚園教諭養成機関の充実をと、叫びたいのです。

一人一人の資質の向上をと、切望しつづけました。粗製濫造の感、無きにしもあらずの一部機関には、大きな憤りさえ感じたものでした。

その点、奈良での一年間は、実に短期間ではございましたが、有意義な充実したものであったと、田舎者の劣等生でしたが、今でもなつかしく、思い出しては、感謝しております

（昭15・保）

「保育所について一言」

山本　雅代

私は、三人の子どもを、預けて共働きをして、高校で化学を教えています。いっぱい書きたいことはありますが、幼児教育（特に保育所について）について書かせていただきます。

都会では、働く母親のために、保育所も保育時間、保育料など改善されているように聞きますが、まだ田舎では、戦後まもなく設けられた保育所設置基準のまま、旧態依然たる保育所経営がなされています。保育料のみ、収入に応じた金額が決められ、共働きの場合は、高額支払わねばなりません。しかしながら保育時間一つとっても朝八時から四時までは、共働きでは二重保育をしなければなりませんし、土曜日は昼までで、保母研修などで、臨時休所も年何回かあります。事実上は共働き用になっていないわけです。

近年特に保育料は高く、（最高三才児二万三千円、二才以下三万円）幼児教育の面から通わせたいと願っても、保育料が高いため辞退される人もかなりいます。私どもは、核家族のため、いかに保育料が高くとも、行かざるを得ないわけですが、やはりそれだけではなく、保育所における集団教育の利点なども考えているわけですから、保育所の設置がこの時代に合ったように改善され、その幼児教育の質も向上されることを切に願っております。

また私ども太子町では幼稚園が二年になっているのですが共働きにとって、この二年が一番困ります。登園している時間が短いわけです。従って幼稚園から帰って保育所でみてもらえるとか、希望している人全部保育所へ行けるようにとか、また保育時間、保育内容も、改善されることを切に願っています。

（昭42・理化）

「家庭科の男女共修について」

吉野　京子

現在の中学、高校における家庭科の教育内容をあまり知らずに意見をいうのは、おこがましいのですが、私たちが今までならってきたような、衣食中心の講義と実習といった家庭科ではなく、現在いろいろと問題にされている家庭における父親、母親のあり方、親子問題等、家庭は、どうあるべきかなどを考える教科としての、家庭科の男女共修が望ましいと思っています。家庭は、男女の協力によって築きあげられるものですし、中学、高校それぞれの時代で男女共に家庭というものを考えていく

機会があれば……と思います。

現在、共働きの家庭が増えつつありますが、依然として男は仕事、女は家事という社会通念の中で、女性は仕事して家へ帰ってからも、家事、育児にふりまわされているのが、実状のようです。家事など、男がやるとみっともないとか、こけんに、かかわるような感じで受けとっている人が、まだ多いように感じられますが、疲れているのは、お互い様ですし、家事は女がするものとして当り前といった考え方をすてて、もっと融通性のある生活ができたらと思います。

一時、『私つくる人、僕食べる人』というコマーシャルが、TVをにぎわしましたが、場合場合によっては、その逆があっても、それでもいいんじゃないかと考えられるような融通性のある社会だったら、もっとやりやすいのにと思うことがあります。家事は女がするものという型にはまった考え方を、なくする意味でも、家庭科の男女共修は望ましいものと思います。

私が教育実習に行きました時、調理の実習を増やしてほしいといった、希望が、多くあったのが、記憶に残っておりますが、調理実習などと、男女一緒にやったりしたら、男子の中には料理に興味をしめす人もでてくるだろうし、家事に対する、特別な抵抗感はなくなるのでは、ないでしょうか。男性が家事をすることが別に男の威厳をなくすことでもなく、男としての値うちの下がることでもないし、むしろ、家庭的で、お互いに、思いやりの気持ちが育つのではないかと、私は思うのです。

現在、我家も、共働きをしておりますが、我家の場合は、母親の協力によって、どうにか共働きが成り立っています。

私の現在の仕事は、会社が建売りをはじめたので、建売住宅の建築確認申請用の図面等を書くことです。周囲の人々に恵まれて、のんびりと気楽にやっております。

子供もこの十二月で満二才になります。私も、もう一年ほどで二十代も終りですので、ここらで、ライフワークをみつけておかなければと思っておりますが、なかなか思うようにいきません。（昭47・家）

新米教師

豊田　邦子

今年四月に明石市内の中学校に勤め始めてから、早や半年が経とうとしています。夏休みが終って、まっ黒に日焼けした生徒たちの顔を見ると、一人一人、それぞれに成長したように見えます。新米教師である私も、彼らに負けまいと思いながら、暗中模索の日々を送っています。

先生になったからには、生徒たちの先に立って何か教えてやろう――こんな気負いを胸に、教師として教壇に立ってみて、最初にぶつかったことは、生徒が言うことを聞いてくれないということでした。私が何度注意しても、生徒は平気でザワザワ話をしているのです。何度も同じことを言うと、私も腹がたってきて、大声を出さなければなりません。こんな状態で、授業なぞ順調にできるはずがないのです。ただでさえ、余裕がないのに、増してや生徒が静かにしてくれないとなると、その時間が無駄に終ってしまいます。どうしてこんな状態なんだろうと、腹が立つやら情ないやらで、気持ちが沈んだまま職員室に帰ってくることもしばしばです。

それでも、いくつか気づいたことがあります。まず、私が生徒たちの現状をよく知らなかったことです。難かしいことを言えば、生徒たちの勉強になるだろう…そんな気持ちが私にあったのかもしれません。私が勉強したことの受け売りでは、生徒たちは消化できないのです。また、生徒たちの学力には、非常に差があるのです。できる子は、自分でどんどんできるし、理解できるから問題がないとしても、できない子――簡単な、小学校の三、四年で習うような漢字も読めない子が同じクラスの中にいるのです。驚いたことに、ひらがな、カタカナの五十音が完全に書けない生徒が、少なくありませんでした。さらに、私自身の授業のもっていき方にも、問題がありました。教えてやろうという、意気込みがあったからでしょうか。どうも教師中心の授業になってしまうのです。生徒たちの興味を起こさせ、自主的に勉強していけるようにしなくてはと思います。考えてみれば、授業は私が教え込む時間ではなくて、生徒たちが学ぶ時間なのですから。

こんな反省をしながら、どうしたら生徒たちが目を輝かせてくいついて来てくれるような授業ができるかな、といろいろ思いめぐらしているこのごろです。この教材はおもしろいから、生徒が興味をもってくれるだろうと思っても、なかなか思うようにいかないのです。経験不足からくる生徒とのやりとりのまずさ、発問のまずさ、等々、まだまだ考えていかなければならないことばかりですが、一生懸命努力していきたいと思っております。（昭53・国）

新人OL

内海　昌子

四年間の大学生活に別れを告げ、神戸の田崎真珠に入社してから早や、半年になろうとしています。

姫路の家から通勤できるという両親の希望にあっていたのと、神戸へ通える淡い期待感が他社よりも田崎真珠を選ばせたのかも知れません。教師の道も一応考えてみましたが、私としてはOLの道を志ざして、昨年何のためらいもなく入社決定の通知を会社へ送りました。それまで他人事のようだった会社が急に現実のものとして私に大きく迫ってきました。

入社式の日、コチコチになっていた私のもとへ奈良女子大学の先輩の方々が激励にきて下さって、とても和んだことが思い出されます。その時ほど、母校をぐっと身近に感じたことはありませんでした。

この半年間、いろいろな場で上司・先輩から基本的なことを教わり、その身につけたことを応用・実践していく立場となってきたわけですが、まだ学生気分がすっかり抜けきったとはいえず、実社会のきびしさに戸惑いながら毎日悪戦苦闘しています。

しかし、上司・先輩方の温かい指導や激励によって最近は会社や仕事の内容も少しはわかってきて、入社時に比べると自分が会社の一員であるという自覚が持てるようになりました。

現在の仕事は主に、都市内における外商を担当しています。大学時代の専攻を教師のように直接には生かすことができませんでしたが、扱うものが宝石であるだけに女性として興味もあり、最適の職種だと思います。この仕事は一見派手そうにみえますが、地味な努

力の積み重ねが必要であり、社内の人間関係だけでなく幅広い層の人々と円滑にやっていかなければならない難しさもあります。それだけに、一般の事務や研究をしているよりは社会を知る機会が多く、今のポストは私にとってよかったと思っています。（昭・53・　）

八月身辺

川瀬　一子

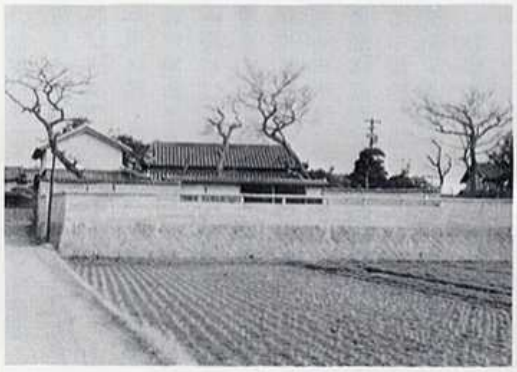
八月に入って間もなく外出から帰ると玄関に小包が届いていました。小牧市の相沢氏から、さて？と宛先を更によく見ると川瀬孝夫（注：亡夫秋二郎末弟）御遺族様として私の名になっています。とにかくお便りを待つとする。翌日お手紙が届きました。お手紙には

「……昭和十九年十月二十六日『レイテ』決戦の戦局最も熾烈を極めましたときレイテ上空の敵機撃滅の為私自ら戦隊全力を率いて出撃しましたが川瀬中尉（当時）は第二小隊長として参加され偶々同島西岸上空に待機した優勢なP－38と交戦、混戦乱闘の間不幸敵弾を受け僚機と共に海上に自爆散華されたものと認めて居ります…。」

と当時の模様が認められてありました。在りし日の記憶がまざまざと甦りました。あれは昭和十九年も暮に近い日の夕刻、思いがけない軍服の訪問客が見え、燈下管制でうす暗い仏間に一振の軍刀を中にして川瀬と対されたあの方が相沢さんだったのかと、相沢さんのお名前はおぼろながら沈痛な一時の光景は眼前に見る画面の様に浮び上りました。孝夫の最期があの時にもこの氏によって報ぜられたのでした。失った部下の補充の引率に帰国されての途上と聞かされたことでした。開いた小包の中からは「……若き部下を散華せしめて生きのこり三十有余年、いつの日にか顕彰の実を結ばせむものをと念願しつつ生活苦と病苦に咀まれ果し得ず今日に至り漸く生計も定まり人生のゴールも目前に迫った昨今、偶々聖観音像を入手する機会に恵まれ、日頃信仰する観音のお慈悲にお縋りして英霊の成仏並に御遺族の御安泰をお祈りするこそ宿願成就の所以と考え……」

の趣意書と共に金色の鋳造の聖観音の一体が現れました。二十有六才で散華した孝夫は勿論独身でした。霊魂回帰するという盂蘭盆会に観音像を贈られたことはこよなき供養唯一の記念と仏壇に安置し、今は唯一人の肉親で永く病臥中の彼の実姉にも伝えようと思うのでした。そして六十有五才になられ心筋硬塞の予後を養って居られるときく相沢寅四郎氏の御余生の身心共に安からんことを心から念じました。

今夏は姪伊津子母子は学校の休暇中の大半を主人の任地であるペナンで過すことになって七月末発って行きました。帰省は八月末になる筈で、開いた夏座敷も閑寂でお盆の祀りもひとりで運びました。仏間には二年前に急逝した川瀬を中にして正利、孝夫の三兄弟の写真が並んで居ります。縁側に三年目の秋二郎の盆燈籠を吊してひっそりとしたお盆を送りました。結婚後七十五日で再応召した正利は女児をのこしてゆきました。その母は再起を期して復籍し伊津子は私共の手許で育てることになりました。昭和二十年正月の誕生、その父は敗戦の色濃い比島にあってやがて生れるであろう児のことをも思いいだきつつ八月十五日奇しくも終戦の日それを知るや知らずや比島ミンダナオのジャングルの中の川原で栄養失調に倒れ毛布にくるまれて河原に埋められたと後日戦友からしらされました。それから二十年余、伊津子は二児を伴って夫の任地へとび安着の電話を通じて家族揃って喜々とした様子が伝って来ました。孝夫君には上官から観音像が贈られて仏壇に共に安置されることも心温まる思いでした。二弟を早く失ってひとり家業を支えた川瀬も心筋硬塞の苦痛の切れ間に「自分もこれでよかったと思う」と安心の言葉をのこして去りました。



母の生家に嫁して四十年、私は今古家の守をしてひとり、今夏は毎夕二時間半ホースで散水を続けましたが庭の主木松の古木の一つを枯らしてしまいました。毎年手がけて来た木造りは松喰虫と高温の故と申します。何だか川瀬の急逝にあった時の思いに似たものを感じます。せめてペナンへついて行かず末期の水をやり通した思いで自ら慰めて居ります。

大正十五年入学難、昭和四年就職難、神戸市職員代用（産休要員）と私立女学校に四年、結婚帰郷、小学校に一年半、姑の発病にて退職、戦前戦後を通じて女子青年団婦人会の世話、教育委員、司法委員、民生委員と小使役を三十余年、家業の肥料商は男商売と住居と店舗が別処の故もあってあまり手伝わず、子も生さず、どうもよい妻よい嫁ではなかった様です。それで今日ひとり古家を守り先人をまつって最後のおつとめを果させてもらっている思いです。この家に居つくものがあってくれるかどうか私の今のいささかの不安ではあります。

慶野松原の根方です。佐保会の方々御気が向きましたらお立寄り下さい。夏はこの辺りも民宿が大はやりです。私宅はひっそりしてますが身内や友人が寄って来ては一、二日を楽しんでゆきました。

井代（みだ）の向ひ松原白く濁り来を
暴風（しけ）近づくと胡麻刈りいそぐ

黒雲の雁来（かりこ）の岬を覆えりと
見る間もあらず雨足しぶく

秋更けて人なき浜に防風の
ぐみは萬朶に紅き実を持つ

（臨国漢4）

トムの町で

松本佳代子

今年の夏休みの初め、五才の長男は、せみが捕えられなかった。近所の神社の森には、せみの数より子供の数の方が多く、せみも随分高い木にしかとまらないのだ。自然が段々遠くなるなあとの実感を持った時、一つの事を思い出した。

シカゴ在住の最初の夏に、ミズリー州ハンニバルへ一泊旅行をした。ここはミシシッピ川に臨み、文豪マークトウェインが少年期を過した所として著名であり、その経験が「トムソーヤ」に詳しく記されている。その自然にひかれ、

又広大な米国大陸にあってはとなりのミズリー州がとなりであるということだけで行き易い感じがあってそれも呼び水となっての旅であった。

八月半ば、当時二才前の長男を連れて、約一時間の空の旅で　イリノイ側のクインシイに着いた。眼下には、合衆国内でも代表的な穀倉地帯が、整然とした大規模な畑にとうもろこしや麦類が植えられており、農家がポツポツと点在し、その外には果てなく続く高速道路が荒い格子模様を見せているだけで山なくただ平旦に無限の広がりを見せていた。

クインシィの町は宿泊だけで翌朝は川をこえてハンニバルへ。家はまばら。道路沿いにガソリンスタンドとレストランが点在する。川でとれるキャットフィッシュ（なまず）が有名だ。

ハンニバルの町は炎天下に焼けついていた。ミシシッピ川の湿度が高温に追いうちをかける。目ざす保存区は町の中心にあり、今なお残る石だたみに、真夏の陽が容赦なく照りつけ、足元からは今にも湯気が立ちそうである。

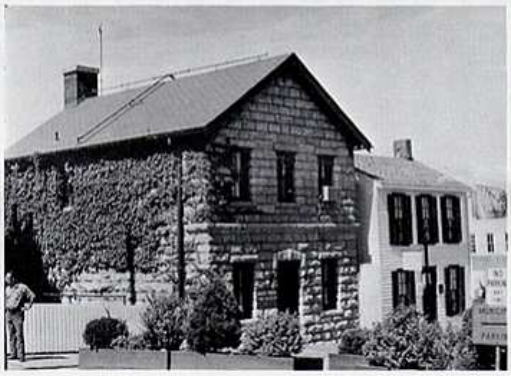
文豪の住んでいた家は現在博物館となっている。内部は各部屋が当時のままに保存され、人形が当時の衣服を着てそこここに立って雰囲気をもり上げている。見学者は大人も子供も興味深くのぞき込む。何にも増して楽しみなことは、当時の生活の一端が伺え、「生きた」博物館となっていることである。全米各地には村ぐるみ町ぐるみ博物館となって保存されているところがあり、以前の生活ぶりが親しく目のあたりにできることが嬉しい。歴史の浅い国だからこそ一層昔のものを丁重に保存するように努めているようである。博物館の向いには、トウインの父の法律事務所や、ガールフレンド、ベッキーの家。白い塀もそのままであった。

トムが冒険の中でミシシッピー川で遊ぶところがある。川幅そのものは想像ほど広くなかったが、ゆるやかな水の流れの中で小島の緑が目に痛かった。夏だけ遊覧船が回遊する。心地よい涼風が顔を撫で生気がよみがえる。こんな自然の中で日々を送っているからこそトムとハックの冒険があれこれとつきなかったのだろう、とスーパー文明の世の住人であることも忘れて我々も共に冒険がしたくなってくるのが愉快である。

有名な洞窟にも足を運んだ。今にもいたずら好きのトム達が飛び出して来そうな雰囲気に胸がおどる。作者の少年時代の経験が見事結実した物語に、子供達は勿論のこと、大人の心にひそむ自然希求や幼時の追想が呼び起こされて共感を呼ぶため、人気が続いているのだろうと思う。

アメリカにはまだまだ自然は生き続けており、子供達は幼少時そこで遊んだことによって実り多い人生を過し、大人も、いつでも好きな時に訪れ一時を楽しめるのは本当に羨しい。いつまでも自然保護に努めてもらいたいと思う。と同時に、日本でも環境や自然の破壊をくい止め次代の子供達に数千年来続いて来たこの繊細で美しい自然を手渡してやりたいものだと痛感させられた。経験は全ての思考の母胎である。健全な思考の母胎になる損なわれない自然が年毎に蝕ばまれてゆく日本を今のうちに何とかしなければと子供のせみ取りを機会につくづく考えさせられたことだった。（昭44・文英）

（松本さんは在米生活四年、今春帰国されました）



（写真中央がトウエンの家　現在博物館）

生活協同組合について

近頃大いに脚光をあびている生活協同組合についてやや啓蒙的ではありますが一通りのことを組合活動の中にいらっしゃる内山美智子さんに記して頂きました。

内山美智子

よりよい生活と平和を求めて人間同志が心をよせあい、力を合せて生きてゆく姿、これが生活協同組合の運動です。

生活協同組合法第一条に「この法律は国民の自発的な生活協同組織の発展を図り、もって国民生活の安定と文化の向上を計ることを期することを目的とする」と記され消費者の自発的、自主的な活動によって国民生活の向上を促進させようというものです。

生活協同組合は一八四四年、英国におきた産業革命によりどんぞこの生活におちいった紡績労働者が、自らの手で純正で公正な品物を手に入れ生活を守ることを考え、二十八人が各自一年がかりで一ポンド（当時約千円）ずつの資金を貯え、ロッチデールの町角で純正なパン、バター、オートミール、砂糖など生活基礎物資の店を始めたのが最初です。現在ではアメリカを初めソビエト、スエーデン、デンマーク等六十三カ国が参加して国際協同組合同盟を結成し、三億人の組合員が加入して、人類の福祉をねがう自主的な運動として発展しつづけています。日本で協同組合運動が始まったのは明治10年といわれていますが、灘神戸生協は大正10年第一次世界大戦が終り世界中に不況の嵐がおしよせ、神戸でも米騒動がおきた時、自分達の生活をまもるために消費者一人ひとりが手をつなごうと社会運動家賀川豊彦の指導によって生まれました。反生協運動、戦争、パニックなど多くの試練を経ながらも組合員の支持と従業員の努力により我が国最大の生協として大きくひろがり、物価高と戦いながら組合員のくらしと健康をまもる運動として発展し、組合員約四十六万世帯、出資金約九十四億円の今日にいたっています。

生活協同組合はみんなが出資者（一口百円）であり、みんなが利用者であり、みんなが経営者であって、良質のものを公正な価格と正確な目方で私達の台所に供給してくれる私たちの店で、安心して買物できます。組合に商品を供給する支部やマーケットは東は川西市から西は加古川市まで八十八か所あります。取扱品は組合員による商品会議で検討し、商品検査室で食品添加物や残留農薬など厳重にチェックし安心できる品物を扱っています。流通のパイプを短くして値段を安くするために冷蔵センターや配送センターを、又生鮮食品の産地直結をすすめています。

更に管理価格や有害商品をなくするため全国の生協と力をあわせて安心できるCO－OP(コープ)商品をつくりだすなど物価安定や良質商品の育成に大きな役割を果しています。本当に消費者が必要とするものを自分達の手でつくろうと直営の食品工場でパン、うどん、とうふ、こんにゃく、納豆、菓子などを生産しています。パンは昭和42年より無漂白パンにふみきり、購売力の結集によって安い価格を維持するなど、組合員の願いがそのまま製品に反映されるのが自己生産の良さです。

以上のような供給活動の他に組合員主婦の自発的な活動として、「如何に生活すべきか」を学びあうために物価家計、商品、衣食住、教育等幅広い学習活動をしています。これらの勉強の成果は業務活動にも十分生かされ、更に地方行政、政府の施策にも消費者からの意見として反映されています。又主婦の成人病予防のための健康活動へのとりくみや、国内や海外旅行などの観光事業も行っています。

人間が人間らしく豊かに生きるために、消費の自由と創造を夢みて、協同組合運動は活発な活動を続けているのです。（昭20・数）

「幼児の遊戯療法」に携わって

西川　弘子

朝夕の風には、かすかに秋の訪れを感じますが、日中の暑さは、まだひとしお厳しい今日今頃です。

やっと二学期がスタートし、我家の腕白息子達(小一、幼)も毎朝、元気よく学校へ、幼稚園へと張り切って出かけております。今はまだ、短縮授業とかで、給食も始まらず、お昼頃には「ただいま！」と汗だくになって帰って来ています。「おかえりなさい。暑かったね」と急いで玄関のドアを開ける時、しみじみと、自分が家庭に入り、母親として、今、こうして学校から帰ってくる息子を迎えてやれることを、心から嬉しく思います。昨年の春、十年勤務した神戸市の幼稚園教諭としての生活にピリオドを打つまでは、私も、自分自身の生き方について深く悩みました。

私は、幼稚園に勤務するかたわら、神戸市教育研究所の教育相談室で、臨床心理の研究、研修に参加させていただいておりました。そこでは、種々の問題を抱えた子ども達（集団生活の困難な子、登校拒否、夜尿症、自閉症児）のプレイ、セラピィ（遊戯療法）を担当し、親は、その間、カウンセリングを受けるシステムです。問題行動を起す子どもを、私達大人は、日常ともすればその現象面だけを捕えて原因を追求することを忘れがちになりますが、その子の生育歴とか、家庭環境（特に、母親との関係）を見ますと、子どもに本能的欲求不満や不安定な精神状態が生じた場合に、いろんな現象となって行動に現われてくる様に思われます。子どもにとって、いかに母親の存在、子どもとの接し方が大切なことであるかを私自身、そこで痛切に感じました。今さらその様なことをと、今、ふり返っても恥しい思いが致しますが、幼稚園で行事や研究会、雑務に追われながらも、その多忙の中に自分の生きがいを感じていた頃には、子どもの育児はすべて母に頼り、我子には「量より質」で接したいと自負していた私でしたが、自分の身辺にも多くの問題点を見つけたのです。私が今まで勉強してきた幼児教育、保育実践の中で体得したものは大切にしながら、これからは、自分の子育てに専念したいと思いました。

幼稚園を退職した現在、我子の教育のむずかしさを毎日痛感しながらも、教育相談の仕事だけは、週二日、嘱託として母の協力を得て続けさせていただいております。我身を反省しながら、週二日だけは家事を離れ、プレイ、セラピィの仕事に携われることのできる現在を幸せに感じると共に、自分も、もっと、母として女として、成長してゆきたいと思っております。

（昭44・幼教）

私の履歴（幼児教育）

実方　充代

仲よしの友達に誘われるまま何の気なしに入った幼教で、毎日、行楽客と同じように浮かれて通った二年間、私にとって奈良での二年間は何だったのかしら――今にして思えば恥ずかしさこの上もございません。

折角勉強したのだから就職しないと惜しいですよと富永先生から促がされ、気のすすまぬまま採用テストを受け、まあ大阪市の公立幼稚園へ採用される資格はできたのです。ようやくその気になったものの当時は不況下の就職難、長い長いそのトンネルをくぐりぬけてやっとたどりついたのが市内でも名門といわれる幼稚園だったのです。名園長のもと、りっぱな先生方がずらり、結婚や出産で退職する方があったり、クラスが増えたりで毎年毎年、威勢のいい新卒の方が入って来られるのです。その殆んどが奈良出身で占められていました。多くの先輩達の懸命に保育に打ち込まれる姿には目をみはるものがあり、その活躍ぶりをまのあたりにして、この時ほど奈良に学んでよかったと有難く思ったことはありませんでした。先輩諸姉によって築き上げられた努力の結晶が、伝統という形で後輩達に無言の導きをしてくれるのでしょう。（それにつけても幼教課程が廃止を余儀なくされたことは只、惜しまれてなりません。）

そんな中で私は、いやおうなく若手から中堅へ、やがて次席へとせいぜい二・三年のつもりが十年も勤めることになったのです。「もう限界だ」「今日で止めよう」「いや、明日まで待て」「石の上にも三年って言葉があるさ！」そんな葛藤が私の心の中でくり返される毎日でした。日々の保育のほり下げ、つまり科学的な洞察、一人一人の幼児への深い理解、それにもまして要求される保育者の資質、経験を重ねる程、壁は厚くなるばかり、そんな中で結婚、出産を機に退職いたしました。幼稚園での十年間は、私にとっては青春のすべてであり、子どもやお母さん、そして先生たちと多くの人とのかかわりを通して得た教えは、計り知れぬものがあり、一生涯を通しての財産であるような気がします。

現在、週に一・二度、尼崎市の幼児教育学級にたづさわり、幼ない子ども（四才児）を相手に楽しいひとときをもっています。彼らといっしょに遊び、見つめ、共感できるこの幸せ、今ほど子どもが可愛いと思ったことはありません。この学級は　母親達の自主グループという形で運営され、母親と幼

児が各々の場で学習を重ねるという形態をとっています。お母さん達と共に語り、その若いエネルギーを肌で感じることができるのもうれしい収穫でございます。

（昭32・幼教）

第三回　むつみ会

七月十六日午前十一時より、親和学園汲温会館に於て開催

出席者　十八名

広々とした冷房の部屋で六十五才から八十才未満の方々が集られ、老後の生活は健康第一とのテーマに絞られた話題に花が咲きまして日々の健康体操の御披露を木村ふみ姉が実演して下さったり、八木静子姉の回転レシーブでもできるしなやかさを拝見したり、若やいだ気分につつまれ時の経つのも忘れて楽しい一日を過すことができました。

八木姉より佐保会養老院に是非御協力してほしいとのお話を伺いました。

盛夏に木村ふみ姉が東京へ転居されることになりましたので時期が酷しい時になりましたが猛暑を忘れた楽しい会でありました。

（当番　三浦智春・木村ふみ・川端悠記子）

＊　＊　＊

支部事務局より

行　事（52年10月～53年9月）

・本部会報・支部名簿・支部だより第一号発送（郵送料節約の為、手渡し励行）52年12月5日

・支部だより創刊・支部名簿発行の反省会（兵庫県教育委員長印部姉御苦労様会を兼ねて）53年1月16日　於竹葉亭　出席20名

・支部総会　53年5月21日　於バーグ　出席54名　講師津留宏先生（神大心理学教授）

本年は、新入会員七名と出席が多く、昨年好評だった直径二十cmの名札を、色とりどりのリボンで本年も胸に下げて頂き、賑やかな会となった。講師の津留先生のお話は、女高師から女子大への移り変わりの頃の裏話で、そんなことがあったのか……と興味深く、又後の懇談も時間が足りなくなる位に次から次へと話が発展し、しかも、それが色々と考えさせられるような有意義なものばかりであったことは、やはり、佐保会の総会だけのことはある、と自画自賛したことである。毎年、会の順序は同じながら、その度毎に違った会になる、とつくづく感じた。帰りに、神戸まつりまで見物し、充実した一日であった。

その折の話を二、三次に記しておこう。

★新入会員の自己紹介の言葉の中に、「先輩の名を汚がさぬよう」と、いう言葉を発見して〝佐保会亡びず〟と我々オールド会員は、大いに気をよくする。

★職場における女性の地位

男性は男女平等を口にするが、これはたてまえで、本心は男性上位である。こと男対女となると男性は団結する。女性は同性の足をひっぱる人がいるのは悲しいことだ。

★女性なるが故に、有利になる面も、ちょっぴりあるが、一層加重される管理職としての、組合対策・同和教育の具体的な体験談、苦心談を色々と話された方もあった。本当に御苦労様です。御健闘をお祈りします。

・本部理事会・評議員会・本部総会に役員出席　四回

・支部役員会　五回

◆お慶び

伊賀正子（昭16・家A）
県立新宮高校校長新任

橋詰ケイ子姉（昭18・家）
西宮市立夙川小学校長新任

◆訃　報

草深美智子姉（昭30・理化）
昭和五十三年二月十日

増田シズエ姉（大3・国漢）
昭和五十三年四月十八日

弔電・香料を送る

◆名　簿

名簿は一年間に訂正箇所が百数十になりますので当初の予定を変更し、本年も発行しました。会費はおかげ様で納入率延べ80％になり大いに、面目をほどこしています。（全国平均60％）振替での会費納入には領収証を、発行しておりません。御了承下さいませ。

＊　＊　＊

編集後記

〝佐保会兵庫支部だより〟の創刊号が会員の方々の間で好評であったから今年も続いて第二号を出そうということで、私達が引受けさせられました。そこで県を三分し、東部を佐藤すなほ、中央部を八木静子、西部を香川敦子と手分けして原稿依頼をしたのでした（今回は日本海側に手が及びませんでしたこと、お許し下さい）

年令的にも居住地区別でも職業別でもバラエティがあるようにという前回の編集方針を踏襲したのですが　編集し終ってみますとまるで保育問題の特輯号のような感なきにしもあらずとなりました。それだけ保育問題は老人問題と並んで現代社会では関心の強いものであるということかもしれません。

今回は紙面を二頁増加しましたにも抱らず折角寄せて頂いた原稿を全部掲載することができず、次回へ廻したり割愛したりすることになり、寄稿された方には誠に申訳ない仕儀となってしまいましたことをお詫び致します。

できればこちらから原稿をお願いするだけでなく、折にふれての御感想や佐保会（本部・支部をとわず）への御注文、御意見など積極的にお寄せ頂けると、もっとこの支部だよりが活気のあるものになるのではないかと考えます。どうか会員の皆様、人がしてくれるというのではなく御自分のものとお考え下さいまして、御声援下さい。

毎度のことで恐れ入りますが、会費未納の方がお知合いの中におありでしたら完納するようおすすめ下さい。会費の集まりがよいことが、このような会報発行という皆様との交流の活潑化となりますのですから。

（香川敦子・佐藤すなほ・八木静子）